



2022/9/10/SAT

SPEECH CONTEST

第39回

手話の普及とボランティア活動推進のために

全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

演題
テーマ

「私がかんばってきたこと」

「変化する社会の中で大切にしたいこと」

2022
SPEECH CONTEST

主催●全日本ろうあ連盟、朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社
後援●厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、
日本手話通訳士協会、全国聾学校長会
協力●東京都聴覚障害者連盟
協賛●NEC

PROGRAM

2022

SPEECH CONTEST

第39回

2022
9/10
SAT

手話の普及とボランティア活動推進のために

全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

12:30 開会あいさつ

朝日新聞厚生文化事業団理事長 藤井 龍也

おことば

佳子内親王殿下

審査員紹介

12:50 スピーチコンテスト開始

10人のスピーチと質疑応答

14:15 休憩(25分)

14:40 特別プログラム

「巻き込む力」(対談)

全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画「咲む」

監督・脚本 早瀬憲太郎

主演 藤田菜々子

15:10 休憩(20分)

15:30 審査結果発表

朝日新聞社論説委員 板垣 哲也

表彰

朝日新聞厚生文化事業団理事長 藤井 龍也

全日本ろうあ連盟理事長 石野 富志三郎

厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長 奥出 吉規

テレビ朝日福祉文化事業団担当部長 木下 智佳子

NEC コーポレートコミュニケーション部シニアディレクター 岡部 一志

講評

審査委員長/日本手話通訳士協会相談役 小椋 英子

閉会あいさつ

全日本ろうあ連盟理事長 石野 富志三郎

16:00 終了



特別プログラム

「巻き込む力」

全日本ろうあ連盟創立70周年

記念映画「咲む」

HAYASE KENTAROU

学習塾早瀬道場塾長 早瀬憲太郎

(はやせ けんたろう)

奈良県出身。横浜市内でろう児対象の学習塾「早瀬道場」を経営。都立大塚ろう学校乳幼児教育相談で2歳児クラスを担当。映画「ゆずり葉(2009)」「生命のことづけ(2013)」「咲む(2020)」の監督・脚本を務める。リオ大会から北京大会までNHKのオリンピック・パラリンピックの番組にコメンテーターとして出演するなどスポーツ方面でも活躍、自身もアスリートとして今年5月にブラジルで開催された第24回夏季デフリンピックに自転車競技日本代表として出場した。

対談



FUJITA NANAKO

映画「咲む」主演俳優 藤田菜々子

(ふじた ななこ)

静岡県出身。小学生の頃に出会った手話落語をきっかけに演劇へ興味をもち、「劇団ひまわり」研修生として12歳頃から活動を開始。映画「ゆずり葉(2009)」にエキストラ出演、NHKドラマ「中学生日記(2009)」に主役で出演。その後大学へ進学し、シナリオライティングを学ぶ。映画「咲む(2020)」出演後、現在は一般企業に勤めながら一児の母として子育て奮闘中。

「巻き込んでいく力に」

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
理事長 藤井 龍也

皆さま、本日は「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」へご来場いただきまして、誠にありがとうございます。このコンテストは、手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的として、1984年に始まり、今年で39回目となりました。本コンテストでは、これまでに400人を超える高校生たちが日ごろの学びの成果を発表してまいりました。卒業後も、さらに手話との関わりを深め、福祉や医療、教育の現場で活躍されている方々がいらっしゃることを、たいへん嬉しく、誇りに思っております。

新型コロナウイルス感染症をめぐっては、流行収束の兆しが見えづらい状況ですが、「手話を学び、広げる学生の思いを応援したい」という思いから、今年は入場者数を例年よりも制限し、ホールでの開催という運びとなりました。全国各地から94人の応募があり、本日はその中から、原稿審査と映像審査を経て選ばれた10人の皆さんに、「私がんばってきたこと」「変化する社会の中で大切にしたいこと」のいずれかのテーマで、ご自身の思いを手話でスピーチしていただきます。

本日ステージに立つ皆さんには、これまでの練習の成果を存分に発揮し、それぞれの大切な思いを会場の皆さんに伝えていただきたいと思っております。そして、このコンテストに出場した経験を、誰か、そして何かを巻き込んでいくエネルギーに変え、それぞれの思いを実現していただければと願っております。

最後になりましたが、このコンテストの開催にあたり、ご尽力いただいた審査員の皆さま、ご後援、ご協力をいただきました厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会、東京都聴覚障害者連盟、また長年にわたり、会場運営のボランティア派遣や副賞の提供などでご協賛いただいておりますNECの皆さまに謹んで御礼を申し上げます。

「手話言語で生活できる社会をともに築きましょう」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟
理事長 石野 富志三郎

「第39回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」が、朝日新聞社をはじめとする関係者のご支援により開催され、若い皆さんがこの大舞台でスピーチされることをうれしく思います。

出場者の皆さんも、練習の機会が限られてしまうなど、たくさんの苦労があったと思います。そのような中で、本コンテストに出場したいという強い思いを持ち、厳しい状況を乗り越えてこの場に立たれた皆さんに心から敬意を表します。

今年の特別プログラムのテーマは、「巻き込む力」です。様々な困難に立ち向かい、皆を巻き込んで目標を達成していく。そして、単純に目標を達成するだけでなく、そこにつながる過程がとても大切です。

今、私たちは、オリンピック、パラリンピックと同様にろう者の国際スポーツ大会である「デフリンピック」を2025年に日本で開催出来るよう招致活動を進めるなどの様々な取り組みを進めています。このような取り組みを進めるためには、私たちの想いをいろいろな人に広く伝え、理解者を増やしていく必要があります。これこそ私たちの「巻き込む力」といえるかと思っております。

また、毎年9月23日は「手話言語の国際デー」です。2017年12月19日に国連総会で、手話言語が音声言語と対等であることを認め、各国で手話言語についての意識を高め、ろう者の人権が完全に保障されるよう決議がなされました。

今年は新しい試みとして、世界ろう連盟より世界各地でのライトアップの呼びかけがあり、日本でも全国各地のランドマークへの青色のライトアップや啓発イベントを予定しております。

このイベントをきっかけに、手話言語への理解・関心が一層広まり、情報へのアクセスがいつでも保障され、どんな障害があっても社会の中で誰一人取り残されることのない社会が実現できることを期待しております。

障害の有無に関わらず、だれもが心豊かに、共に暮らせる社会を、皆さんと共に築いていければこんなにうれしいことはありません。

SPEECH CONTEST

第39回

手話の普及とボランティア活動推進のために

全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

スピーチコンテスト出場者紹介(出演順)



多様性の難しさ 1

愛知県・桜花学園高等学校3年
中越 未唯 (なかごし みゆ)

私たちの生きる社会は、目まぐるしく変化をしてくれています。その中でも、私は多様性を尊重する社会を目指すことが大切だと思っています。しかし、多様性を尊重することは大切だとわかっていても、周りの理解がなければ受け入れることは難しいです。私はある男の子に出会ってそう感じることができました。沢山の問題が解決されるのはまだまだ先の話かもしれませんが、これから、誰もが安心して暮らせる社会になることを願っています。



諦めない精神 2

神奈川県立横浜南陵高等学校3年
高澤 由紀菜 (たかざわ ゆきな)

私が頑張ってきたことは、11年間続けてきたピアノです。そのきっかけは、母に連れられてピアノ教室を見学したことです。グループレッスンでは、中学2年生に上がった時から効率的な時間の使い方と家での個人練習の方法を考え自分に合った、よりよい方法に変えていきました。この経験から、私は継続することの大切さを学び、諦めない精神を身に付けることができました。これからも、成長し続けていきたいと思っています。



大切な人 3

神奈川県立平塚ろう学校3年
高濱 彩佑生 (たかはま さゆき)

皆さんにとって「大切な人」とはどんな存在ですか?私にとって「大切な人」はおばあちゃんです。かけがえのない存在です。七年前におじいちゃんを亡くし、現在一人暮らしです。私は、限らない優しさを持っているおばあちゃんとの時間を大切に、恩返しをしたいという気持ちから書きました。皆さんにも大切な人がいたら、その人との時間を大切に過ごし、少しでも長く、穏やかな日々が送れるような世界になりますように。



大切にしたい 人との「つながり」 4

北海道札幌手稲高等学校2年
及川 采優 (おいかわ あゆ)

私は3歳の時から現在まで毎年友達と年賀状を送り合っています。特に大切にしているのは、中学の友達からの年賀状です。その年賀状での「つながり」は、中学とは環境が変わり辛かった私に力をくれました。感染症の流行により、人と直接つながれない時代に、人々はインターネットやSNSの活用を進展させ、なんとかしてつながろうとしています。私を何度も支えてくれた、人との「つながり」をこれからも大切にしていきたいです。

審査員のみなさん

小椋 英子	日本手話通訳士協会相談役／審査委員長
奥出 吉規	厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長
山根 昭治	全日本ろうあ連盟理事
有山 一博	全日本ろうあ連盟理事
粟野 達人	東京都聴覚障害者連盟会長
板垣 哲也	朝日新聞社論説委員

コンテスト副賞

第一位	NEC ノートパソコン LAVIE direct N12
第二位	NEC ノートパソコン LAVIE direct N11
第三位	NEC タブレット LAVIE T8
奨励賞	NEC タブレット LAVIE T7

※このほか出場者全員にスピーチの録画 DVD を NEC から贈ります。



コロナ禍で大切にしたいこと 5

大分東明高等学校 2年
山本 宗明 (やまもと そうめい)

新型コロナウイルスにより、新しい生活様式が当たり前となりました。このような社会の中でこそ大切にしたいことがあります。それは、マスクで覆われ隠されている「笑顔」です。最近では、「笑顔」が減ってきていると感じます。そんな中、介護実習や同行援護講習で、どんな時にも笑顔で人と接することが大切だと知りました。笑顔はきっと人の心を優しく、明るくしてくれると信じています。



夢を奪わないで 6

埼玉県立特別支援学校 坂戸ろう学園 2年
吉瀬 千咲 (きせ ちさき)

どんな人でも大きな夢を持つことはできる。一方で、夢を諦めた人もいるかもしれない。その中で、ろう者の諦めた理由の中に「聞こえないから無理」と言った人がいた。私は、いろいろな体験をして、ろう者は聞こえないから無理と決めつけないことが本当に大事だと感じている。障害の有無は関係なくだれもが大きな壁にぶつかる。それでも夢を諦めないで努力することが必要なのだ。私は、これからも自信を培い努力していく。



それぞれのものさし 7

宮城県・クラーク記念国際高等学校仙台キャンパス 2年
瀬戸 穂香 (せと ほのか)

「自分がされて嫌な事は相手にしてはいけない。自分がされて嬉しい事を相手にもしよう。」私と同じく、あなたも言われたことがあるのではないかと。しかし私は、自分が相手のためを思ってとった行動が、逆に相手を傷つけてしまった経験がある。その経験から私は、自分の価値観で判断せず、相手を理解する努力をしている。そして、お互いに違う個性や考えを認め合って、より良い人生を生きていきたい。



笑顔でいること 8

愛媛県・済美平成中等教育学校 1年
高橋 葵 (たかはし あおい)

私は、家族や友達など自分の周りにいる人達の笑顔を見るのが大好きです。みんなが笑っている顔を見ると、自然と元気をもらうことができるからです。誰かが笑えば、それを見た誰かが笑顔になり、笑顔の連鎖が始まります。私も誰かの元気の源になれるよう、いつも笑顔でいようと心がけています。



聾者として社会の一員として~私のアイデンティティー 9

熊本県立熊本聾学校 2年
諸林 摩耶 (もろばやし まや)

私の家は姉と私が聾者です。聾学校で生活する私たちが母が積極的に地域に連れ出してくれたおかげで、熊本地震の時もスムーズに共助に参加できました。少しずつ地域に手話を広め、聾者としての自信ももてるようになりました。コロナ禍の今、マスク越しでコミュニケーションが取りづらい中ですが、誰もがお互いに支え合える社会の実現を目指して、手話を言語に持つ私たちも、積極的に発信していきたいと思っています。



「普通」なんてない 10

愛知県立岡崎高等学校 2年
高橋 萌花 (たかはし もえか)

「普通」なんてない。私は、「普通」とは、10人いれば10個の普通があって、一人一人違うものだと思います。私はCODAなので、ろう社会の「普通」を身近に触れた生活の中で、耳の聴こえない人達は、聴こえる社会の「普通」に合わせるために、昔から色々な我慢を強いられてきたと知りました。多様性が認められる社会にするために、「『普通』なんてない」ということを大切にしていきたいです。

スピーチコンテストのルール

このコンテストは、手話の普及とボランティア活動、福祉教育推進のために開催します。全国の応募者の中から原稿審査と映像審査で選ばれた10人が手話を使ってスピーチします。

●審査方法

内容、表現、態度、質疑応答の4項目を審査

●時間

4分以上6分以内。

4分に足りない場合と6分を超える場合は減点。

4分になるとベルが1回鳴り、緑のランプが点灯します。

6分の30秒前になるとベルが2回鳴り赤のランプが点灯します。

手話によるスピーチコンテストの歴代入賞者

(第1回～第15回は大学生の部も開催しましたが、スペースの関係上、受賞者の記載はありません)

1

<第1回>1984年8月28日 朝日ホール(朝日新聞東京本社)

- 第1位 中川悦子(滋賀県・滋賀女子高校3年)
- 第2位 小林真由美(埼玉県立越ヶ谷高校1年)
- 第3位 田中順子(東京都立永山高校3年)
- 第4位 高塚由布美(島根県立安来高校3年)
- 第5位 蝦名幸子(青森県立青森中央高校3年)

2

<第2回>1985年8月27日 朝日ホール(朝日新聞東京本社)

- 第1位 渡辺江身子(滋賀県立八幡高校3年)
- 第2位 星野正人(栃木県立鹿沼商工高校3年)
- 第3位 鎌田真奈美(秋田県立能代高校3年)
- 奨励賞 亀岡信子(和歌山県立橋本高校3年)
- 奨励賞 与那原直美(沖縄県立八重山高校2年)
- 奨励賞 大下淳子(広島県立佐伯高校3年)

3

<第3回>1986年8月20日 朝日ホール(朝日新聞東京本社)

- 第1位 浅沼陽子(群馬県立太田女子高校3年)
- 第2位 斎藤水樹子(東京都・普通士学園高校3年)
- 第3位 井戸益美(三重県立四日市商業高校3年)
- 奨励賞 小林恵子(鹿児島県立奄美高校1年)
- 奨励賞 秋元由美枝(岡山県立津山東高校3年)
- 奨励賞 飯島明美(東京都・鶴川高校3年)

4

<第4回>1987年8月25日 大阪SABホール

- 第1位 根間みどり(沖縄県立宮古農林高校3年)
- 第2位 野口純代(東京都立園芸高校3年)
- 第3位 小宮静(東京都・惠泉学園高校2年)
- 第3位 浅井真理子(北海道室蘭清水丘高校1年)
- 奨励賞 尾崎恵(熊本県立水産高校1年)
- 奨励賞 山口恵美子(富山県・富山女子短大付属高校3年)
- 奨励賞 北川智映子(岐阜県・岐阜第一女子高校3年)

5

<第5回>1988年8月28日 有楽町朝日ホール

- 第1位 佐々木恵美(山口県立小野田高校3年)
- 第2位 森利口純世(北海道千歳高校3年)
- 第3位 今在家紀子(滋賀県立八幡高校3年)
- 第3位 小林智子(山形県立天童高校3年)
- 奨励賞 矢古宇ゆかり(東京都立富士森高校3年)
- 奨励賞 山口由利子(愛媛県立内子高校2年)
- 奨励賞 西田由美(富山県・富山女子短大付属高校3年)

6

<第6回>1989年8月27日 名古屋・朝日ホール

- 第1位 高見千秋(福岡県・明光学園高校3年)
- 第2位 豊森映里(東京都立富士森高校3年)
- 第3位 林亜子(富山県・富山女子短大付属高校3年)
- 第3位 玉正晃子(大分県・桜丘高校2年)
- 奨励賞 川原崎史子(神奈川県・桐蔭学園高校2年)
- 奨励賞 熊谷美穂(長野県・田川高校3年)
- 奨励賞 関優子(神奈川県・足柄高校2年)

7

<第7回>1990年8月26日 福岡市・大博多ホール

- 第1位 福島倫美(和歌山県立橋本高校3年)
- 第2位 大田美和(東京都立富士森高校3年)
- 第3位 那須詠子(滋賀県立八幡高校3年)
- 第3位 麻生真理(熊本県立人吉高校2年)
- 奨励賞 田浦豊子(福岡県立田川高校3年)
- 奨励賞 坂本淳(大分県・桜丘高校3年)
- 奨励賞 野間忍(愛媛県立今治北高校3年)

8

<第8回>1991年8月25日 有楽町朝日ホール

- 第1位 早坂千草(山形県立樺岡高校2年)
- 第2位 伊藤美由紀(秋田県立湯沢北高校3年)
- 第3位 相原清美(神奈川県立綾瀬西高校3年)
- 奨励賞 細川ひとみ(和歌山県立橋本高校3年)
- 奨励賞 岩崎陽子(群馬県立中央高校3年)
- 奨励賞 瀬戸山裕美(宮崎県・日章学園高校3年)

9

<第9回>1992年8月30日 京都産業会館・シルクホール

- 第1位 森山亜子(東京都・跡見学園高校3年)
- 第2位 井上敏美(京都府・京都学園高校3年)
- 第3位 中川京子(福井県立勝山高校3年)
- 奨励賞 金丸望美(福岡県立福岡中央高校2年)
- 奨励賞 竹野由香(長崎県・聖心女子学院高校3年)
- 奨励賞 浜さおり(愛知県・安城学園高校3年)

10

<第10回>1993年8月29日 有楽町朝日ホール

- 第1位 坂本聖美(北海道・北星学園余市高校3年)
- 第2位 大野留美(福井県立大野東高校3年)
- 第3位 吉岡奈々(滋賀県立八幡高校3年)
- 奨励賞 桜井扶美(神奈川県・神奈川大学附属高校3年)
- 奨励賞 甲斐知美(福岡県立光陵高校2年)
- 奨励賞 佐藤由香(長野県中野高校3年)

11

<第11回>1994年8月26日 名古屋・電気文化会館

- 第1位 宮田奈央子(秋田県立湯沢北高校3年)
- 第2位 佐藤和恵(北海道・北星学園余市高校3年)
- 第3位 菊地里彩(東京都・淑徳学園高校3年)
- 奨励賞 谷崎美智子(徳島県立城北高校1年)
- 奨励賞 岩谷誠司(京都府立木津高校2年)
- 奨励賞 豊田和浩(愛知県立小坂井高校3年)

12

<第12回>1995年8月27日 有楽町朝日ホール

- 第1位 堀尾沙世(静岡県立三ヶ日高校2年)
- 第2位 藤田京子(京都府・日星高校3年)
- 第3位 山崎広末(福井県立三国高校3年)
- 第3位 山崎史(神奈川県・聖園女学院高校3年)
- 奨励賞 三宅恵子(岡山県立精研高校2年)
- 奨励賞 安部京子(大分県立高田高校3年)
- 奨励賞 芳賀友紀子(宮城県立県が浦高校2年)

13

<第13回>1996年8月25日 浜離宮朝日小ホール

- 第1位 上原多恵(香川県立高松高校3年)
- 第2位 藤本麻里(山口県立小野田高校3年)
- 第3位 森本奈央子(三重県立稲生高校3年)
- 奨励賞 木村愛子(山形県立山形北高校2年)
- 奨励賞 新津香代子(茨城県立水戸第三高校3年)
- 奨励賞 山口春香(長野県中野高校3年)

14

<第14回>1997年8月24日 有楽町朝日ホール

- 第1位 高田加奈子(熊本県・八代白百合学園高校3年)
- 第2位 小林信恵(愛知県・桜丘高校3年)
- 第3位 犬塚直志(埼玉県・早稲田大学本庄高等学院3年)
- 奨励賞 大滝志織(山形県立樺岡高校3年)
- 奨励賞 澤田友子(岐阜県立加茂高校2年)
- 奨励賞 藤本泰啓(山口県立小野田高校2年)
- 奨励賞 成田由美子(大分県・楊志館高校3年)

15

<第15回>1998年8月29日 浜離宮朝日小ホール

- 第1位 山崎亜矢(長崎県・純心女子高校3年)
- 第2位 土田朋子(秋田県立横手城南高校3年)
- 第3位 松本早苗(高知県・高知学芸高校3年)
- 第3位 松田一恵(福岡県・九州女子大学附属高校3年)
- 奨励賞 沢田沙希(岐阜県立加茂高校1年)
- 奨励賞 諏訪久美子(岡山県・倉敷翠松高校3年)
- 奨励賞 神田有香(大分県・楊志館高校2年)

16

<第16回>1999年8月28日 有楽町朝日ホール

- 第1位 山下典子(北海道・北星学園余市高校3年)
- 第2位 松井理納(富山県立上市高校1年)
- 第3位 森田多明衣(岐阜県立大垣東高校1年)
- 奨励賞 佐和田賢美(神奈川県・川崎市立川崎高校2年)
- 奨励賞 荒瀬奈穂子(長崎県立佐世保中央高校2年)
- 奨励賞 松岡修司(岡山県美作高校3年)

17

<第17回>2000年8月27日 有楽町朝日ホール

- 第1位 平川千加子(滋賀県立致遠館高校3年)
- 第2位 星野幸子(大阪府八洲学園高校3年)
- 第3位 石野麻衣子(東京都・聖心女子学院高等科1年)
- 奨励賞 川島さなえ(北海道標茶高校2年)
- 奨励賞 柳川岳也(神奈川県立高浜高校3年)
- 奨励賞 高瀬恵(東京都立大泉学園高校2年)

18

<第18回>2001年8月25日 有楽町朝日ホール

- 第1位 塩手陽一(大分県・楊志館高校3年)
- 第2位 茨里絵(静岡県立湖西高校3年)
- 第3位 藤村早生(群馬県立吾妻高校2年)
- 奨励賞 渡部翔子(神奈川県立高浜高校3年)
- 奨励賞 青木綾子(大阪府・関西創価高校2年)
- 奨励賞 古田朱美(岐阜県立加茂高校3年)

19

<第19回>2002年8月24日 有楽町朝日ホール
 第1位 旭亜祐美(大分県・楊志館高校3年)
 第2位 池田和廣(東京都・暁星高校3年)
 第3位 川原まりあ(長崎県・純心女子高校1年)
 奨励賞 小栗皆実(岐阜県立加茂高校3年)
 奨励賞 永井友絵(東京都立大泉学園高校3年)
 奨励賞 佐川優一(広島県立高陽東高校2年)

20

<第20回>2003年8月30日 有楽町朝日ホール
 第1位 遠藤一祐(大分県・大分東明高校3年)
 第2位 大平知佳(大分県・楊志館高校2年)
 第3位 倉田恵利香(三重県・上野高校1年)
 奨励賞 中村泰介(静岡県庵原高校3年)
 奨励賞 平山由貴(滋賀県・光泉高校3年)
 奨励賞 立浪寿賀子(富山県高岡西高校3年)
 貞広邦彦賞 大分県・大分東明高校

21

<第21回>2004年8月28日 有楽町朝日ホール
 第1位 横山里美(高知県立中芸高校3年)
 第2位 副大輔(大分県・楊志館高校3年)
 第3位 中島志織(佐賀県唐津東高校3年)
 奨励賞 志村まどか(東京都立大泉学園高校3年)
 奨励賞 小栗実香(岐阜県立加茂高校3年)

22

<第22回>2005年8月28日 有楽町朝日ホール
 第1位 山本瑞穂(神奈川県立横浜南陵高校2年)
 第2位 貴田みどり(東京都・下北沢成徳高校2年)
 第3位 笹原香(山形県立東根工業高校3年)
 奨励賞 赤坂美穂(長崎県立西彼農業高校3年)
 奨励賞 山口真(奈良県立天理高校第2部4年)

23

<第23回>2006年8月26日 有楽町朝日ホール
 第1位 鷺尾美佳(兵庫県・武庫川女子大学付属高校3年)
 第2位 山下尊子(香川県立高松南高校3年)
 第3位 竹本加奈(広島県立廿日市西高校3年)
 奨励賞 菱山南帆子(東京都・和光高校2年)
 奨励賞 岩野光(大分県・楊志館高校3年)

24

<第24回>2007年8月25日 有楽町朝日ホール
 第1位 田窪愛(大阪府立向陽台高校3年)
 第2位 浜田亜実(徳島県立鳴門第一高校3年)
 第3位 鈴木公彦(長野県松本県ヶ丘高校1年)
 奨励賞 今井通嗣(神奈川県立川崎高校3年)
 奨励賞 居山知絵(東京都立千歳丘高校3年)

25

<第25回>2008年8月30日 有楽町朝日ホール
 第1位 皆川愛(神奈川県・自修館中等教育学校4年)
 第2位 富岡治美(北海道室蘭栄高校3年)
 第3位 野中友貴(大分県・楊志館高校3年)
 奨励賞 佐伯乙美(広島県・広島国際学院高校1年)
 奨励賞 島袋アミ(愛媛県立松山南高校3年)

26

<第26回>2009年8月29日 有楽町朝日ホール
 第1位 森香裕(群馬県・県立藤岡北高校2年)
 第2位 山本明珠花(岡山県・岡山学芸館高校3年)
 第3位 吉田晴香(岩手県・盛岡女子高校3年)
 奨励賞 中村千紘(香川県立三木高校3年)
 奨励賞 太田隼平(岡山県・岡山県水島工業高校2年)

27

<第27回>2010年8月28日 有楽町朝日ホール
 1位 細川絢加(北海道室蘭栄高校3年)
 2位 芹沢瞳(東京都立大泉桜高校2年)
 3位 齊藤美香(東京都・愛国高校3年)
 奨励賞 山元友起(大分県・楊志館高校3年)
 奨励賞 松永奈美(神奈川県立横浜南陵高校3年)

28

<第28回>2011年8月20日 有楽町朝日ホール
 第1位 山崎芽佑里(富山国際大学付属高校3年)
 第2位 坂本雪乃(高知県立安芸高校3年)
 第3位 岡司裕亮(滋賀県立八幡高校3年)
 奨励賞 城戸翔太(東京都立大泉桜高校2年)
 奨励賞 吉良健太郎(大分県・楊志館高校3年)

29

<第29回>2012年8月25日 有楽町朝日ホール
 第1位 池田奈月子(香川県・坂出第一高校2年)
 第2位 大野奈緒(滋賀県立八幡高校3年)
 第3位 木村愛恵(兵庫県・播磨高校3年)
 奨励賞 工藤友香里(宮崎県立延岡青朋高校3年)
 奨励賞 伊藤悦子(東京都立大泉桜高校3年)

30

<第30回>2013年8月31日 東京・第一生命ホール
 第1位 山内菜帆(静岡県立沼津西高校2年)
 第2位 幸田美花(東京都・恵泉女学園高校3年)
 第3位 三宅花奈(兵庫県立尼崎高校3年)
 奨励賞 具志堅友香(沖縄県立真和志高校3年)
 奨励賞 冨塚楓(神奈川県立横浜南陵高校2年)
 特別賞 菅沢亮太(大分県・楊志館高校3年)

31

<第31回>2014年8月30日 有楽町朝日ホール
 第1位 坂本龍成(高知県立安芸高校3年)
 第2位 道見優奈(東京都立墨田川高校3年)
 第3位 今野衣都美(神奈川県立横浜南陵高校2年)
 奨励賞 石川真実(滋賀県立八幡高校3年)
 奨励賞 切通幸太(福岡県立久留米筑水高校3年)

32

<第32回>2015年8月29日 有楽町朝日ホール
 第1位 佐藤梨江(愛知県・桜花学園高校3年)
 第2位 與那嶺舞寧(沖縄県立真和志高校3年)
 第3位 新井ほのか(鳥取県立鳥取聖学校2年)
 奨励賞 坊田悠太(広島県・広島学院高校2年)
 奨励賞 廣川祐和(北海道追分高校3年)

33

<第33回>2016年8月27日 有楽町朝日ホール
 第1位 井麻優香(熊本県立阿蘇中央高校2年)
 第2位 松本蒼空(静岡サレジオ高校1年)
 第3位 加藤珠羅(愛知県立蒲郡高校2年)
 奨励賞 幸喜樹里(沖縄県・仙台育英学園高校広域通信制課程LC沖縄2年)
 奨励賞 栗栖啓人(大阪府立松原高校2年)

34

<第34回>2017年8月26日 有楽町朝日ホール
 第1位 長谷川幹奈(北海道石狩翔陽高校3年)
 第2位 山田楓恋(神奈川県立高浜高校3年)
 第3位 青木凜華(福島県立ふたば未来学園高校2年)
 奨励賞 佐藤愛理(東京都立大泉桜高校3年)
 奨励賞 長谷川未実(岐阜県立長良高校1年)

35

<第35回>2018年8月25日 有楽町朝日ホール
 第1位 柏原力樹(福島県立田村高校3年)
 第2位 大見夏鈴(岐阜県・済美高校2年)
 第3位 吉村義誠(佐賀県・東明館高校2年)
 奨励賞 徳永旭(高知県立安芸高校2年)
 奨励賞 脇島愛奈(栃木県立壬生高校3年)

36

<第36回>2019年8月24日 有楽町朝日ホール
 第1位 安江瑞紗(愛知県・桜花学園高等学校3年)
 第2位 西垣佳純(熊本県立熊本聖学校高等部3年)
 第3位 川越まい(愛媛県・済美高等学校3年)
 奨励賞 中村桃香(神奈川県立高浜高等学校3年)
 奨励賞 大野瞳子(東京都立瑞穂農芸高等学校1年)

37

<第37回>2020年9月13日 特別開催
 特別賞 藤平愛(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園3年)
 特別賞 南陽菜(東京都・闘友学園女子高等学校2年)
 特別賞 星野夢愛(東京都立大泉桜高等学校3年)
 特別賞 河原花奈(神奈川県立横浜南陵高等学校2年)
 特別賞 上田紗瑚(愛知県・桜花学園高等学校3年)
 特別賞 鈴木真奈(奈良大学附属高等学校3年)
 特別賞 本田和(新潟県立燕中等教育学校5年)
 特別賞 高橋真衣(愛媛県・済美高等学校2年)
 特別賞 山田杏奈(福岡県立久留米筑水高等学校2年)
 特別賞 吉村章(熊本県立熊本聖学校3年)

38

<第38回>2021年9月12日 特別開催
 特別賞 清水詩(福島県・東日本国際大学附属昌平高等学校3年)
 特別賞 松田愛未(神奈川県・日本女子大学附属高等学校2年)
 特別賞 森健司(大阪府立北千里高等学校2年)
 特別賞 二神優(愛媛県・済美高等学校3年)
 特別賞 平嶋晴宇(福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校3年)

第39回

全国高校生の手話による
スピーチコンテスト

手話の普及とボランティア活動推進のために

2022
SPEECH CONTEST